

従業員の皆様へ

自分自身だけでなく、家族と一緒に働く方を
風しんからまもるために、下記の対策をご検討ください。

妊娠前の女性は

妊娠前に
風しんの予防接種
をご検討ください。

※接種後2カ月は避妊が必要です。
※2回の接種で、より確実に先天性風しん症候群を予防できます。

妊娠中の女性は

ご家族の方に
風しんの予防接種
を検討するようご相談
ください。

※妊婦は風しんの予防接種を受けることができません。
※妊娠中で予防接種を受けられない場合には、人混みを避ける
など、風しんにかかっている可能性のある人との接触は
可能な限り避けてください。

成人男性は

以下をチェック！

- ☐ 風しんにかかったことがない方
- ☐ 風しんワクチンを受けていない方
- ☐ どちらも不明な方

該当する方は、風しんの予防接種
をご検討ください。

※2回接種しても問題ありません。

風しん
注意報

流行には引き続き注意が必要です。

※平成24～25年度に風しんが流行し、職場や通勤時の感染が疑われる患者が多く見られました。

あなたの職場でも
風しん予防対策されていますか？

今、風しんにかかる患者のうち、働く年齢層の方が多くなっています。
妊婦が感染すると、赤ちゃんが『先天性風しん症候群』になる危険性があります。

事業者の皆様へ

健康で安心な職場の環境整備のため、下記の対策をご検討ください。

1

従業員が
予防接種のために
医療機関などの受診を
希望した場合には、
ご配慮ください。

2

入社時などに、
予防接種の記録の
確認を本人に
呼びかけるように
してください。

3

職場での
感染予防のため、
風しんにかかった
人の休暇について
ご配慮ください。

4

従業員に対し、
風しん抗体検査の
機会を設けるよう
ご配慮ください。

Q & A 職場での風しん予防対策

Question ① なぜ職場で風しん予防対策が必要なの？

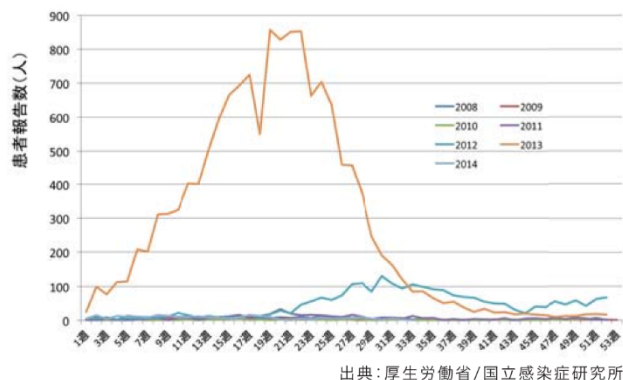
風しんにかかる患者は働く層の方に多いからです。

風しんが流行した2013年の患者数は14,357人、うち約70%が男性でした。また、男性患者の約80%は20-40代と、成人の働く世代に多くなっています。

2013年度の国の調査によると、30-40代の成人男性の約16%が風しんの免疫がないことがわかっています。

◎職場での風しん予防対策は、社会全体の風しん感染拡大防止にもつながりますので、予防のご理解、ご協力をお願いいたします。

【風しんと報告された患者数】



Question ② なぜ風しんにかかるとよくないの？

妊婦が感染すると、赤ちゃんが『先天性風しん症候群』になる危険性があります。

妊娠した女性（とくに妊娠20週頃まで）が風しんにかかる、と、耳が聞こえにくくなる、心臓に奇形が生じる、目が見えにくくなる、精神や身体の発達に遅れが生じるなどの障がい（先天性風しん症候群）を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

Question ③ 風しんってどんな病気？

- 風しんウイルスが感染者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつります。
- 主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れ（3つの主な症状）が認められます。3つの症状がそろわない人も多く、感染しても症状がでない人は約15～30%程度います。
- 通常は自然に治りますが、まれに脳炎になったり、血小板という血液の成分が減少して、皮膚に紫斑が現れる人もいます。関節が痛くなる人もいます。症状がでる前後の約1週間は、周りの人にうつす可能性があります。

Question ④ 風しんを予防するには？

- 風しんワクチンは1回の接種で約95%、2回の接種で約99%風しんを予防することができます。※妊娠期間中は予防接種を受けられません。
- 風しんワクチンを受けていない方、風しんにかかったことがない方、どちらも不明な方は風しんの予防接種をご検討ください。

予防接種の必要性は、抗体検査でわかります。

- 現在多くの自治体では先天性風しん症候群の予防のために、主として妊娠を希望する女性を対象に、風しんの抗体検査（免疫の状態を調べるための血液検査）を無料で実施しています*。

予防接種を受ける場合

- 麻しん対策の観点も考慮して、麻しん風しん混合ワクチンを接種することをお奨めしています。
- 抗体検査を受けずに予防接種を受けることもできます。予防接種は2回受けても問題ありません。

*抗体検査の実施状況についてはお住まいの地域の保健所、予防接種についてはお住まいの市区町村にお問い合わせください。

Question ⑤ 風しんにかかってしまったら？

- 風しんは感染力が強いので、風しんを疑う症状を認めたら、無理をして職場に行くことはやめ、医療機関に相談しましょう。
- 医療機関等で風しんと診断されたら、主治医や上司等と相談し、発しんが消失するまで勤務を休むことを検討しましょう。
- やむを得ず外出する際には、マスクを着用し、できるだけ人混みを避けましょう。